

金沢大学4年生へのノートパソコン必携化に関するアンケート調査

総合メディア基盤センター 佐藤 正英
森 祥寛

1 はじめに

金沢大学では、人文社会・理工・医薬保健系を問わず「高度情報化社会に対応できる情報処理の基礎能力・総合力を持った人材育成」を目的として、情報教育に取り組んでいます。その取組の1つとして、2006年度から新入学生全員に入学時にノートパソコンの準備をさせています。この準備させたノートパソコンを「学生生活の中でどのように利用してきたのか？」等について、4年生にアンケート調査を行いましたので、その結果を報告します。

2 調査概要

調査には「アカンサスポータル」を使用しました。アカンサスポータル内の一機能である学習管理システム（以下、LMS という。）のアンケート機能を用いて行いました。調査表項目は年度によって多少の推移はあるが全25問である。調査は、大きく分けて（1）基本情報（2）購入させたノートパソコンに関すること（3）本学情報教育に関すること（4）スマートフォンに関すること（5）4年生11月時点におけるPCリテラシーに関する自己評価（6）アカンサスポータルの利活用に関することの6項目からなります。

3 調査結果

（1）基本情報では、所属とパソコン等に対する単純な好悪について聞きました。好悪感情を聞いたのは、それが他の回答に対して影響があるかどうか、その相関を知るため、図1は2014年度の結果です。全般的に好意方向に偏っていることがわかります。また調査を開始した2011年度辺りからスマートフォンが普及し始めましたが、その普及度に伴い、スマートフォンへの好悪感情が段々好意に移行しているのが、図1下図から見取れます。

（2）購入させたノートパソコンに関することでは、パソコンの故障状況やパソコンの利用時間や自宅での利用頻度等について聞いています。図2、図3は、購入したノートパソコンが故障したかを聞いたもので、3年生、4年生になると2割近い学生のパソコンが故障していることになります。のべの割合で見ると約半数の学生が故障を起こしているといえることができます。

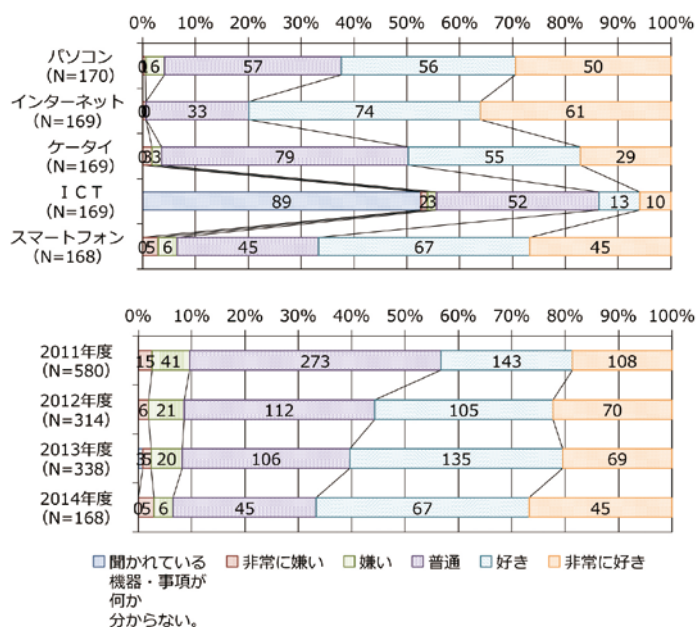


図1 パソコン等に対する好悪感情（2014年度全学）

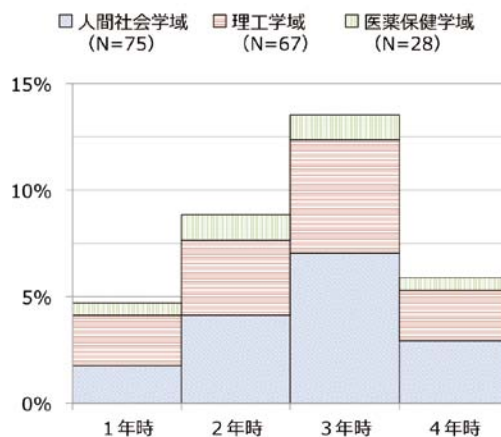


図2 故障し、修理をした学生の割合

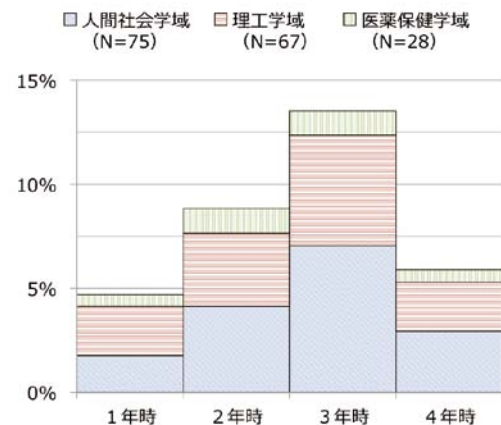


図3 故障し、修理をしなかった学生の割合

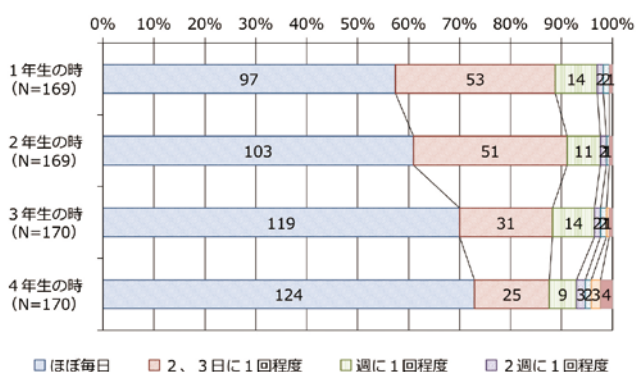
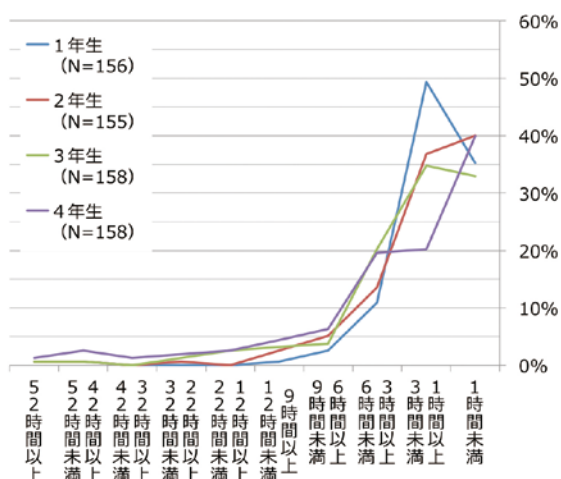
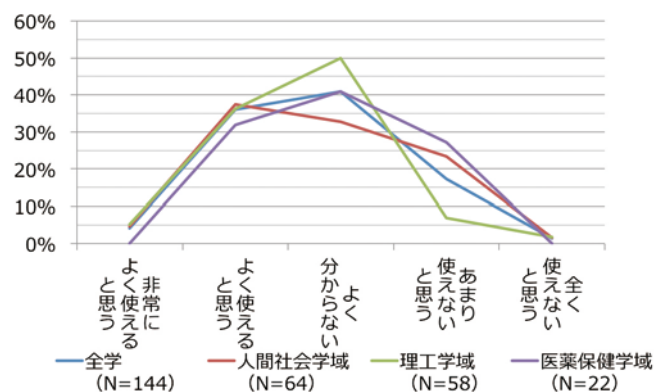
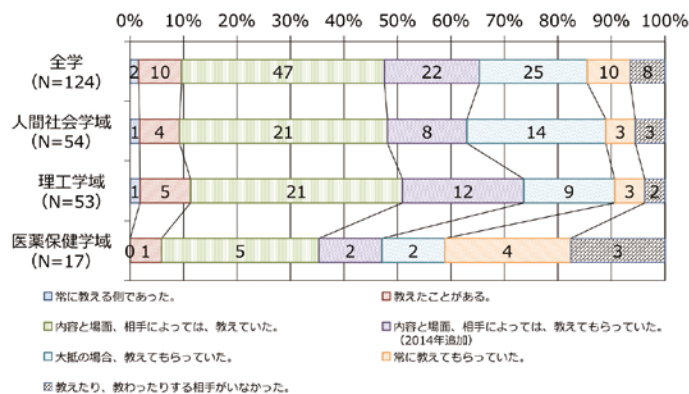


図4はパソコンを授業で1週間辺りどれだけ使用しているかを示したものです。この結果から、学年による活用方法の変化が見て取れます。また、授業での利用が年度を経るに従って減っていることは、パソコンを使用する授業自体が少なくなっているということも示しているようです。

図5は、自宅でパソコンを扱う頻度で、学年が上がるにつれてパソコンを扱う頻度が増えていることが分かります。なお、この結果についてパソコンに関する好悪感情との相関を見ると、4年生の時にパソコンを扱う頻度の結果から低い正の相関が認められました($r = .245, p < .001$)。低いなりに相関があることから、パソコンが好きな方が利用頻度は高くなるようです。しかしそれ以上に、その生活の中でパソコンを使用しなくてはならない場面が出てくるかどうかに影響されていると言えるでしょう。

(3) 本学情報教育に関することでは、「在学中に情報技術等をどのように学んだか」からはじめて、「情報技術を教える側であったか(図6)」「金沢大学の情報教育充実度」「パソコンを使えるようになったか(図7)」について聞きました。情報技術の学びは、1,2年生の時に授業で学ぶ、研究室等に配属されてから必要な技術を教えてもらう、学びたいことを独学で学ぶの、大きく3つに分けられました。なお、本学の情報教育そのものに対しては、過不足はなかつ



たという意見が大勢を占めていました。そして、図7から、学生は最終的には、「パソコンが使えないことは無い」と考えて卒業していることが見て取れます。とはいえ、もっとパソコンが使えると思うようになって卒業してもらうための体制を整える必要がありそうです。ちなみにパソコンの好悪感情との間には低い正の相関が認められました ($r = .369$, $p < .001$)。

(4) (5) (6) については紙面の都合上、ここでは割愛します。

4 まとめ

この調査によって、入学時に購入させたノートパソコンの利用状況がある程度明らかになってきました。その結果、そもそも学生はパソコンに大きな嫌悪感を持っているわけではなく、その利用に当たっては、好悪感情とは離れて利用されていることが分かりました。つまり、学生は、学生生活において ICT の活用が必要であると考え、それを使うことを素直に受け入れているのでしょう。実際に、学生が大学で学習／研究活動を行う以上、このようなことは当然のことで、教員や学生系の事務職員にとっては、感覚として分かっていたことが、改めてデータとして示されたのは面白い点といえます。